平成 30 年度　交通に関する須佐地区意見交換会　議事要旨

日　時：平成 31 年 2 月 7 日（木）　10：00～11：30
場　所：須佐総合事務所 3 階大会議室
事務局：萩市、須佐総合事務所、日本工営㈱
ご参加：住民の皆様 17 名
報道関係：萩ケーブルネットワーク、はぎ時事新聞

1. 開会
事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）
山本部長：（省略）

3. 議事
（1）（資料１、２）
事務局：資料１、２を説明（省略）
意見交換：
事務局：調査結果を踏まえ、方向性を整理して今後の方針案の話を説明した。課題を克服するために大きく４つの視点で将来像の案を描いている。
参加者：将来像案について、益田への足が重点的に書いてあるが、特に高校生は半数が萩方面へ向かう。将来像案の図面では萩への幹線交通、特に路線バスが益田方面と比較して弱いように感じる。
事務局：広域的な幹線を担う路線として、JR 山陰本線を位置付けている。ただ、萩方面への路線バスはどうなのかというお気持ちは分かる。頂いたご意見も踏まえ、足の確保を含めて総合的な手法について検討していきたい。
参加者：今回意見交換会参加にあたり、交通に関して様々調べた。その中で、島根県雲南市の例が先進的ではないかと思う。縦割行政を無くし、あるものを組み合わせる、無駄を無くすということが書いてあった。発想の転換が面白いと感じた。住民目線で縦割りではなく横串で、という発想が欲しいと感じる。例えば旅客と一緒に貨物の輸送も兼ねるというアイディアも考えられる。今後はデメリットもメリットに活か

すことが大切だと思う。官民合わせて、無駄を省いて、シンプルにして、急ピッチで考えていかないといけないと感じる。

事務局：縦割ということだが、交通と福祉の部署で連携して考えていきたい。また、住民の方と事業者と、行政とで協働して取り組みたいと思っている。

参加者：高齢者生活支援として乗合サービス（もやいサービス）をやっている。開始までに 2 年かかった。交通事業者ではないため、輸送の対価としての現金のやり取りは難しい状況。国から許可を得るのは難しい。輸送の対価として現金を受け取れない代わりに、地域通貨を発行して対応している。ただ、地域通貨では足りない部分もある。また、タクシー廃業後、果たして誰がその穴を埋め、担うのかという点が問題である。確かに助け合い、もやいの精神は重要である。しかし、ぐるっとバスもあれば、保育園や小学校の送迎車、もやいサービスと移動に関する部分はばらばらである。資金もばらばらである。これらが統合できればいくらかは人が雇える。個別ではなく誰が担うか、ということが重要。

事務局：住民の方に担っていただくにしても高齢化で誰が担うかという点は課題である。地域の団体に担っていただくにしても運転士の確保は課題。足の確保という意味では、全体的に考えていくことが大事だと思う。ただ、それぞれのできる範囲がある。利用者が選べるということも大事だと考える。福祉でやっている事業も、ぐるっとバスの事業もきめ細かい交通とは何か、高齢者が移動しやすい交通とは何かを考えていかねばならない。全ての交通網を一体的に運営する仕組みは、すぐに体制を作れないので、まずは様々な手法を組み合わせたいと思っている。自家用有償旅客運送に当てはまらない輸送もあると思う。近所の支え合いやボランティア団体などの住民の支えあいもある。

参加者：何か事故が起こった時の対応、法令順守、責任の所在が心配である。誰が法令管理をするのか、体制作りが大事だと考える。事業に当たって基礎的な部分をしっかり詰めてからでないと、難しいと感じる。ぜひ考えてほしい。

事務局：これまでは安全性の確保、利用者の安心感から緑ナンバーの事業者で交通を担う仕組みだった。ただ、過疎地域ではそれが成り立たなくなっているため、国の方に登録したら白ナンバーで人を運送できる制度が自家用有償旅客運送である。移動手段の確保という視点で、その手法も考えたい。

参加者：ぐるっとバスの本数が増えると聞いたが、どのようになるのか。

事務局：現在増える方向で検討中である。

参加者：手術したため、遠いところまで歩けない。ぐるっとバスの待ち時間が 2 時間あり、間の時間をつぶせない。本数が増えたらありがたい。

事務局：週 5 日運行、時間帯の制限をはずすことを考えている。

参加者：9 時に乗っても相乗りなので時間がかかる。診療所の時間に間に合わない時がある。

事務局：時間帯の制限を無くす予定なので、利便性が上がることが期待される。ただ、多くの方が重なると待ってもらうようなこともある。

参加者：診療所は水曜が休診なので、火曜と金曜が混む。時間の余裕ができるように運行が変わると嬉しい。

事務局：ぐるっとバスなので方向が重なったら遠くまわることもある。4 月からはそれが緩和されるようにしたいが、タクシーと同じようにはならない。2 時間待ちの状況は改善したい。

参加者：診療所は暖かいからまだバスを待てるが、キヌヤは待つところが無いから駅に行って待っている。

参加者：地域として交通のサービスを統合する事について、賛同する。事故の面は確かに心配だが、理想像は高く持った方が良いのではないか。雲南市の事例を勉強してほしい。利用者目線で見た輸送の統合、横のつながりを実現してほしい。

参加者：ぐるっとバスの問題点は、町中へ行って路線バスや鉄道に乗り継ぐことができない様な、健康上問題がある人には使えないということ。乗継ができない人は困ると思う。そのような方もいるので、移動支援として広く情報を 1 か所に集めて、横串で連携してほしい。

事務局：まずは今のぐるっとバスの制度に合わせて改善策を進めたい。自治会の意見を聞いて、となり近所の移動に困っている方の話等々、住民による支えあいも含めて考えていきたい。

参加者：交通体系は結局民間で動かないと出来ない。移動支援として様々な形が統合した横串のひとつのかたまりが欲しい。商工会が 10 年前にモデルとして取り組んだができなかった。

参加者：タクシー休業と廃業の違いについて。今後の地域の交通体系を維持するのに邪魔になるのでは。休業の場合、復帰する際に他の交通の利便性が高くなっていたら復帰に支障が出るのではないか。

事務局：資料は、現況として運輸局への届け出の状況をそのまま示している。仮の話だが、休業から復帰した際には、タクシー業者に委託して交通を担ってもらうことも考えられるので、休業が復帰の支障になることはないと考えている。

参加者：京丹後市のタクシー事業廃止の件はどう思うか。

事務局：京丹後市の場合は、NPO がタクシー廃業後に移動支援に動き始めたと伺っている。また、京丹後市はバスの運賃を抑えて利用を促進したと聞いている。今後、萩市においても運賃補助なども福祉政策と連携してやっていきたい。また、スクールバスの混乗なども考えたい。

参加者：ぐるっとバスは無料であり便利である。様々な移動を統合して一本化するのは難しいだろうが、輸送を担う団体があれば実現できるのではないか。

参加者：市会議員が発行するチラシを読んだが、白タクに似たような過疎地の制度があると聞いた。今は萩や益田に行く際は、友人に連れていってもらっている。謝礼を差し上げているが、もっと気軽に頼める制度があれば、例えば社協などが運転士募ってできないか。

事務局：白タクは登録せずに自家用車でタクシーを行うことであり、白タク行為自体は今も禁止されている。平成 18 年から過疎地域では自家用有償旅客運送の制度が開始された。先ほどのお話は、切実な問題であると感じる。基本は輸送して対価を受け取れば自家用有償旅客運送として安全確保が必要である。ただ、市の公用車を貸し出してボランティアに輸送してもらっている例もある。その場合は対価を取らない。大分では、コミュニティのサークル活動として交通を確保している地域があり、輸送費ではなく会員から会費としてお金を集めて、運転はボランティアがやっている事例がある。運輸局に確認してやっているとのこと。ただし、路線バスが走っている区間で地域コミュニティ交通を進めると幹線交通の維持が難しくなる。

参加者：支えあいは大切だが、支える人間も高齢化する。多世代につながればいいが、担い手がいない。人がいないのが過疎である。様々な移動サービスを統合する必要があると思う。利用者もわがままは言えない。支えあいの仕組みを作るのは喫緊の課題だと思う。

参加者：移動の供給側及び行政側の組織化を早くやったほうがいい。「須佐方式」を作るために、関係団体集まって考える。行動を起こさないといけないと思う。

事務局：民間団体の皆様の中で、移動に関して課題を認識してもらっていると思う。
少しでも前に進めればいいと思う。それぞれの団体で移動をテーマにして話してもらえると嬉しい。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上